

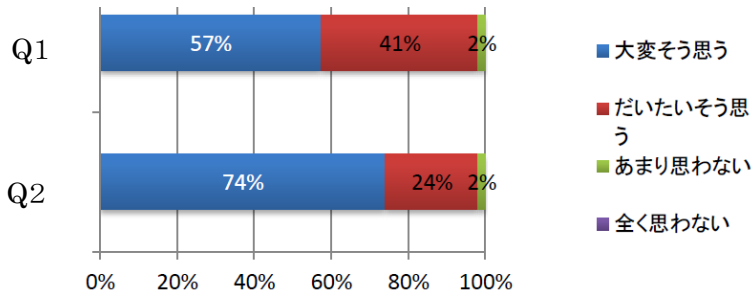
# 高校生がとらえる福島の現状と復興 アンケート結果

2019/9/7

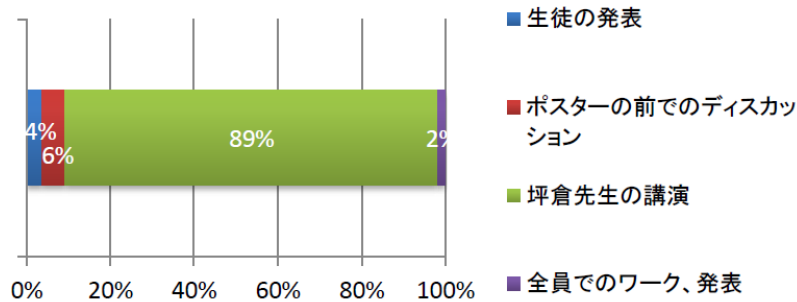
生徒54名のデータ。

Q1 あなたの、福島の現状についての理解度は高まりましたか？

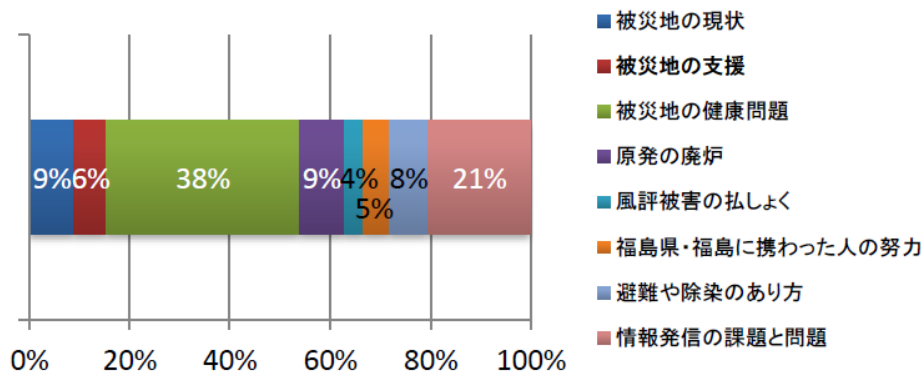
Q2 あなたの、福島の現状についての関心は高まりましたか？



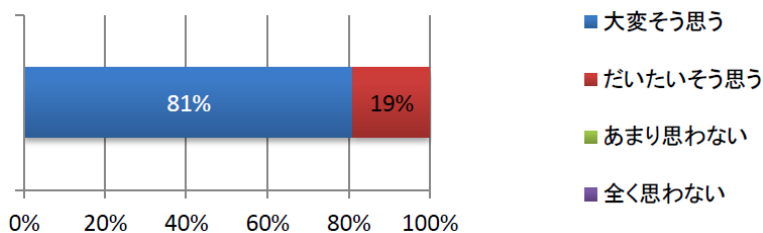
Q3 一番印象に残っているのはどの内容ですか？



Q4 本日特に勉強になったのはどの話題ですか？（2つ選択）



Q5 研修全体について、満足しましたか？



Q6 今日新たに学べたことを何でも書いてください。

学年	
1	ポスター発表やグループディスカッションを通して、高校生でもできることはあって、それに興味を持っている人がいることが分かりました。また、講演会では、分からないことが分かることが一番の理解であるという言葉がすごく心に残りました。
1	今まで知らなかった建物についてや、除染や廃炉に関する色々な考え方、タイベックスーツが放射線を遮れないということ、震災後の最も大きな人が亡くなる理由が印象に残りました。
1	問題、課題、解決法の結びつき「わからないことを理解すること/被災地の詳細な現状と復興の進行度合
1	問題と課題の違い、自分たちは他人事のように福島について考えていたということ
1	被災した当時の事や今、行われていることについて新たに学びました
1	問題と課題の設定、そして具体的な対象に向けた解決策の設定の大切さ
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の放射線の影響はほとんどないということを改めて理解できた</li> <li>・被災地の現状などを実際に見るべきだということ</li> <li>・問題と課題について</li> <li>・自分達で行える事を考える重要さ</li> <li>・震災後の健康被害について</li> </ul>
1	課題を設定していくことの難しさ
1	論理的な思考
1	問題と課題の違い、問題→課題→解決策の流れ
1	問題を考える時に、坪倉先生が「誰が」の部分が抜けているとおっしゃっていたことが、まんま僕もそうだったので、とても心に響いた。
1	原発の廃炉についてや県外から見た福島の姿、考えるべき復興のためのプロセスなどについて学びました。
1	被災地の現状や、各所の取り組みなどを知ることができた。そしてそれ以上に、講演会により現在の探究活動の本質を理解することができた。
1	今日の坪倉先生の講演会は、私がやってきたことを全て覆すようなものでした。「事実を述べるだけの発表では、いけない。自分が何を分かっているかを知り尽くし、わかっていることとわかっていることを言葉で表現できるようになったうえで自身が感じたことを述べる」というアドバイスを受けました。今後も放射線に関する様々な活動に参加していきたいと思っているので、そういった場でこのアドバイスを生かして堂々と発表したい、と思いました。また、問題→課題→解決策と考えていく中で、ただ単に A という課題があるからみんなには A じゃなくすればいいというような考え方、また解決策を行うその主語となるのは誰なのかということを考えなければ、君たちはその問題に本当に真剣に取り組もうとはしていないんだ、というお言葉もいただきました。その言葉は私にいい意味でかなり大きなショックを与えました。今回、坪倉先生からうけた重い一つ一つの言葉を真摯に受け止め、私の教訓としたいです。
1	研究において、課題の見つけ方と、捉え方。
1	話やプレゼンの構成です
1	具体的な方法には SVO を明確にすることが大切ということなど
2	分からないことがわかるということが大切だとわかった。また、問題と課題の違いを初めて知った。これから、この2つのことを意識して、自分にできることを考えていきたい。

2	問題と課題の違いなど
2	学んできたことを、なぞるように発表しても、もう今の段階では相手にしてもらえないこと。
2	データによって、福島の復興の現状や人の持つ意見の傾向について分かりやすく伝えることができると分かりました。また、福島の復興だけでなく物事を効率よく進めていくにあたって、根本的な問題やそれを細かく分けた課題というものは誰でも述べて作り出せるものに過ぎず、重要なことは誰が具体的に何をすれば良いのかまでを決定し、実際に進めることだと学びました。
2	自分たちが自ら行うことができる解決策を探すことが一番大切だということ。
2	どういう情報を持っていれば判断の幅を広げることができたのか、という視点。
2	放射線と医療を結びつけたデータをみて、今まで知らなかった震災後の死亡原因や時期を知れて新たな知識がつかえました。
3	問題だけ討論しても意味がない
3	課題への解決策として課題の否定をするだけならそれは考えていないだけだということ。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原発に対して国の違いによっても様々な見方があり、今までネガティブ思考になりがちでしたが新たな視点を学んだ</li> <li>・坪倉先生が何度も強調していた「何を分かってないのかを言葉で分かること」、問題から課題を見つけ出すことの難しさや大切さなど、自分の考えを深めていく上で大事な根本的な部分を教えていただけだと思う。今までのわたしの考え方はまだまだ浅い所までしか届いていなかったんだと痛感した。</li> </ul>
3	坪倉先生のおっしゃっていた「わからないことをわかること」。問題を課題、解決法まで落とし込まなければならぬこと。
3	問題→課題→解決策のプロセスにおいて、課題決定の難しさと、解決策における主語を手の届く範囲に絞ることの大切さを感じることができた。
3	わからないこととわかることの間を大切に
3	まず問題を見つけてそれに対して課題を見出し、出来ることを考える。これはすべてのことに対して通用することだと思いました。受験までの時間をこういったことを心がけながら目標達成に向けて頑張ります。
3	問題に対する考え方。外国と福島での原発に対する意識の違い。

以下、紙で提出した人

課題や問題に付ねるPがD-4.

これまで、「福島の高校生の意見」として、自分の言うことを素直にそのまま読み込んでもらえることが多かったが、坪倉先生以外の意見に対して問題点を指摘する(現実感があること)していたみたい。何をいっても、に焦点を当てて考えればよかったと思った。

発表をする上で、自分の中で不明瞭な部分を感じていたが、やはり「分かる-分からない」の区切りを正確にする必要を知らなかった。

相対して「被災地の現状」情報が多かったという点。分からないと分かることが異なってくる。これからの課題を見つけて出すのが必要。

「情報」が大切

水学校は震災時の様子  
歴史資料館が、津波への反省が示している  
ドイツでも事故があったが昔の出来事に対する  
対応では原発は好意的

正しい知識を身につける、知ろうとするのが大切  
分からないことを分かって言葉にする  
全ての対策の根拠を傷つけない

「問題」と「課題」という違いについて、全く考えたことは  
なかったが、明確な違いがあることが分かった。  
避難している人が福島に戻ることが少ないことの原因が  
避難先での生活の安定が大きいことが分かった。

• 何が分かっているのかを分かっていくことが大切である。

• Science = 課題設定

• 課題がないということは何も考えていない。

探究活動の妨げを、先生の講演により深く学ぶ  
ことができた。

Aが正しいのでAをする。か、S  
VOのSをはきりさせることが印象  
に残った。今のままでは、サつては  
偽善かもしれない。

今では「被爆は危険だ」という考え方に触れる機会が  
多々あるため、新しい視点から「被爆」について  
考えることができた。

問題、課題、分からないことを  
分ける。

行動を起こす前に存在する「課題」の重要  
性

福島の現状について考えたりする際には、  
誰が主体なのかを明確にすることが  
大事だと分かった。

自分達が今一番求められていることは、  
課題の設定と実行だということが分かった。  
また、他の国の人の考えや方法が分かった。

問題と課題の違い

我、課題を定めること

ドイツだけ難しいこと  
（グループワークを通じて）  
学んだ。

ドイツは事故は歴史上のものとして扱われていること。  
問題と課題は異なり課題を見つけることが重要な  
難しいこと。

私は相互地区の研修会に参加したのであるが、他のワーク  
ショップに参加した生徒さんの考えをたくさん聞くことが  
でき、福島の原発事故について偏った知識を  
とらずに皆で乗り越えていく、という気持ちの  
大切であることがより一層感じられた。  
貴重な機会をありがとうございました。

Q7 今日の会の感想を書いてください。今日発表してくれた生徒への応援・感謝メッセージがあればぜひ書いてください。

- 
- 1 今日の会で話し合いや考えることの大切さ、問題、課題などの考え方について知ることが出来たので良かったです。初め、あまり行く気になれなかったのですが、来てよかったと思いました。
- 
- 1 今回の会で、震災について、まだ私が知らない知識が多くあることがよく分かりました。また、坪倉さんのお話後のディスカッションで、問題、課題、解決策を考える時に、何に気をつけなければいけないかなどが分かったので、これから参考にしていきたいです。
- 
- 1 今行っている探究活動をこれからさらに進めていくにあたって、問題意識を持つことも大切だが、その問題をいかに個人でも解決できる課題にして、一步一步着実に解決に導くかという視点が大切だと感じた。  
一口に復興といっても、人によって様々な視点があり、解決していくべき目標が違っているところが興味深いと思った。
- 
- 1 普段こんなことはないののでいい経験になった 先生のように深い考えを持ちたい
- 
- 1 実際に被災地に行った人たちの発表はマスメディアの情報と違って身近に感じることができました
- 
- 1 非常に有意義な会であった。特に坪倉先生の講演では、千葉先生が「泣いた」とおっしゃっていた意味が分かった。
- 
- 1 坪倉先生の話が分かりやすく、これからの探究活動の大きなヒントを得られたような気がします。また、放射線に対する興味も向上し、非常に有意義な会だったと思います。  
今日得たものをこれからに生かしていきたいです。
- 
- 1 生徒発表も、同じ学年ながら凄いと感じるものが沢山あって驚いた。坪倉先生の講演もとても為になるもので、やっと福島の復興について考えるスタート地点に立てたと思う。
- 
- 1 同じ学年の方たちが堂々と発表していて刺激を受けた。また、来年こそは復興に関する様々なイベントに参加したいと思った。
- 
- 1 坪倉先生の貴重な講演を聞くことが出来て、大変嬉しかった。福島の現状と復興のことをしただけでなく、物の捉え方、考え方を知ることが出来てよかった。
- 
- 1 新たに学べたことの欄にも書いたが、坪倉先生が最後の方におっしゃった話の問題を考えることに関する事は、これからの生活におおいに参考になると思い、今回の講演を聴けて良かったと思う。また、被災地のことも、前に千葉先生が開かれた放射線に関する講義の復習にもなって良かった。
- 
- 1 本日の会を終えて、福島の現状や未来について大いに考えることができました。7月に行われた放射線の授業をきっかけとし、原発事故関連の話題に興味を持つようになり、自分なりに色々と調べてきましたが、本日の会を聞いて、調べる方法や考えるべきことについて再考できました。非常に有意義な会になりました。
- 
- 1 同級生や同じ年代の人が積極的に福島関連の活動を行っていることが分かり、大きな刺激になった。自分も含めてより知識をつけなければいけない・プレゼン能力を高めなければいけないという場面があった。
- 
- 1 私は今まで復興のためにはまず正しい知識を広げよう広げよう、と言ってきましたが、私達の見えないところでその行動が、反対に誰かを苦しめていることを知って、今までやって来たことが少し恥ずかしくなりました。私は、結局小さな世界観でしか復興について考えていませんでした。まずは、自分の知っている世界ではなく、知らない世界の人が復興について、福島について、放射線の問題についてどう考えているのか、知る必要がありました。客観的に、いろいろな立場の人の立場に立ったり、私が知らないそういう世界のことのお話を沢山の人が聞いたりしたいと思いました
-

---

た。そして、そうすることで、もっと説得力があって、どんな立場の人にとっても復興の兆しとなるようなスピーチが出来るようになりたいと思いました。

---

- 1 今回の会で、自分は発表者という立場での参加となった。被災地の研修会でいろいろなことを感じた。が、それを言葉にして伝えるのはたいへん難しい作業だった。特に、バスの窓から眺めた風景や、実際にバスを降りて感じた、被災地の「雰囲気」は、書面からは感じ取ってもらえない。自分のできる限りの力でそれらを言葉へ落とし込むのが「伝える」立場の自分に課せられた義務であるのだが、その役目を十分に果たせたかと思えば、まだ足りないと感じる。

今回のように体験したことをまとめ、そして発表することにおいてなにより重要なことは、自分の口から発せられる情報のひとつひとつが「正しい」ものであるかどうかだ。今回のまとめを作るにあたり、西本さんや資料館の映像、そして職員の方がおっしゃったことを多く取り入れた、そのため、発表の基本は「代弁」だった。人の話を、自分が代わりに他の人に伝える。その行為が背負う責任の重さを、今回の会で感じる事ができた。自分の中で曖昧な部分を少しでも減らすべく、今後同じ様な研修会があったときは、なるべく多くの情報を記録していきたい。

そして、坪倉先生による講演会の内容も、今後自分たちが探求活動をしていくにあたり、大きなヒントとなるものだったと思う。

知られていることとまだ知られていないことの境界線を、言葉にする。

この作業は、何も研究者だけがやってきたものではない。

書店にズラリと並んだ文学作品たちは、多くの課題を「物語」という形にして、わたし達に伝え続けている。

新潮文庫で一番発行部数の多い作品は、夏目漱石の「こころ」（701万500部）である。そしてその次が、太宰治の「人間失格」（670万5000部 いずれも2014年のデータ）だ。

なぜ、そんなにも売れたのか。これらの作品は、何を伝え続けているのか。一度、自分の目で確かめなければいけないと感じた。

---

- 1 研修で学べたことをみんなで発表し合うことができよかったです。探求とはどんなことか、について坪倉先生の話聞くこともできていい刺激になりました。
- 

- 1 同世代の人たちが自分なりの考えを持っていることに刺激を受けました。また、坪倉先生のお話を聞いて、自分たちが今後どのような方向性で復興に取り組みばよいのかの見通しがつきました。
- 

- 2 とてもいい時間になった。自分たちの学んだことを精一杯発表することができてよかったです。坪倉先生のお話では、問題や課題の取り組み方を学ぶことができた。
- 

- 2 坪倉先生の講演で、知らないことは何かを言葉で表現することがまだまだできていないと感じました。この講演を通して、問題だけで終わることなく、自分たちが出来る課題を見つけ出し、身近なことから課題解決に向けて取り組むことが科学という世界にとって大切になるので、実践していきたいと思いました。とても参考になりました。
- 

- 2 東京で発表した時、聞いている人達の反応が、自分が想像していたものと実際の反応に大きくギャップがあると感じていました。会までに、その原因が何で、どうしたらいいのか考えていましたが、今日まで答えが出ていませんでした。

しかし、今日の坪倉先生の話聞いて、やっと分かりました。自分の発表で足りていないことは、まだ分かってないことを明らかにして、自分の言葉にする、そこまで調べる、話し合う、ことです。福島に対して誤解がある、放射線の知識が不足してる、そんなことはみんな知ってる、とっくに話し合ってる。こういうことがありました、これは震災後数年は通じるけど、今はもうそんな段

---

---

階は終わった。

坪倉先生の講演後に、問題を→課題・手段にする活動を行いました。問題はいくつかあげられていましたが、課題に落とし込むこと、ということが全く出来ませんでした。

問題は、自分たちの発表が表面的。浅いこと。課題は自分の、分からないことが分かるまで、調べ尽くすこと、それを話し合っ、他の人の意見を聞いたり、勉強したりすること。

先生の話聞きながら、おっしゃっていることが、とても難しいことだと思いました。しかしこの力こそが、福島の復興のために必要なんだと、教えてもらいました。やはり自分はこれからも福島と関わり続けたいです。難しくても、調べて、考えて続けようと思います。そして、今回自分が設定した議題をもっと、上のレベルで発表出来るようにします。

- 
- 2 発表に関する後悔などはあるものの、参加してよかったと思います。発表に関しては、もっと自分のはうまくやれたはずなのにできなかったと感じました。坪倉先生の指摘にもあった通り、ただ事実を並べ、一般論的な結論で締めただけの発表に人を動かす力は生み出せない、ということは、発表している最中に気づきました。発表によって自分が一体何をしたかったのか、今一度考え直そうと思います。大人になっても福島に住み続け福島を好きで居続ける中で、観光地に訪れてみたり県産食材を食べたり、といった当たり前の貢献をすることだって大事なことで、そのことも忘れずにいたいと思っています。発表者側の立場にいる方が他の参加者の方よりも学べることは多かったと確信しています。伝える会を得られたことはとても幸運でした。

質疑応答の時間は、これものりくらし質問を躲す形になったことが少し残念です。しかし、答えに詰まらずにやれたのは良かったです。

坪倉先生の講演では、伝え方の理形を見ました。何となくでしかわかっていなかった人々の心情の偏りがデータ化され明示されて表現されているのは新鮮だったし、説得力がありました。

これからは、自分で動けるようになることを目標にしていきます。

- 
- 2 これから自分たちがやるべきこと、考えるべきことを知ることが出来て良かった。もっと福島について向き合っていくべきだということも学べたのは、自分にとってとても大きかった。

- 
- 2 発表まではできても、質疑応答や、自分の考えをまとめることの難しさを改めて感じた。

- 
- 2 坪倉先生の講演の中で正しい情報を伝えることはもちろん大切だけど、その行為によって、傷ついている人がいるという話を聞いて、今まで私の中ではそのように奥まで考えることが出来ていなかったもので、自分が正しいと思ったことでも考えてから行動しようと思いました。本当に勉強になりました。参加してよかったなと思います。

- 
- 3 地元の復興について考える良い機会となったと思う

- 
- 3 楽しみにしていた坪倉先生の話が聞いてよかった。自分が知らないだけでいろんな人が福島の復興に尽力していることを知れてよかった。

- 
- 3 ・生徒のボード前での発表時間について、それぞれを見たかったのですがまわれずあっという間だったのもう少し長くしてもらいたかったです。

・坪倉先生のご講演で、今後私たちが福島を考えていく上での自分なりの答えの導き方を教えていただきました。今までわたしが悩んでいた部分はここだったんだと分かったような気がしました。そしてもっと深くまで追求し考えられるようになりたいです。

・このような会は今までNPO法人主催で開かれることはありましたが、高校生が参加することは稀だったので今回、学校をあげて開いてくださって同年代のみんなが福島についてどう考えているのか、知ることができました。このような機会を設けてくださってありがとうございました。

---

---

3 1 番印象に残ったのは、坪倉先生のお話です。

今まで、震災や原発について具体的な状況や取り組みを知る企画に積極的に参加してきました。その度に様々なことを学び、何が問題なのか、何ができるのかを考えてきました。しかしそれは、今回先生がおっしゃっていた「問題」に過ぎず、「課題、解決策」まで落とし込めていなかったことに気づきました。

このプロセスを学べたことは、今後復興に携わるだけでなく、様々なことに生きてくると思えます。坪倉先生のお話を聞いて本当に良かったです。

---

3 とても勉強になった。

3 坪倉先生の話がとても身になった。

3 ポスター発表の時に発表者にいくつか質問をしました。詳しく教えてくれて、より理解が深まり、原発に対する興味が湧きました。坪倉先生の講演では福島の実況を教えてくれた上、それに対して僕たちに何が出来るかを考えることはすべてにおいて通用することだということを知りました。この会を通じて福島の復興に向けて自分にできることは何かを考えるようになりました。

3 実際に福島で医療に携わる坪倉先生の話聞いて、福島における医者というものがどうあるべきかを知ることができ、今後の人生に生かしていきたいと思った。また、科学をしていく上での考え方を詳しく教えてもらい短い時間ではありましたがそれを実行することができてとてもいい経験になりました。

3 夏休みの被災地研修も合わせて、まだまだ少しではありますが、福島県の現状や目指しているものを感じることができました。今回坪倉先生がおっしゃっていた「分からないことがわかる」という言葉が、深く心に刺さりました。今まで「問題」の段階で止まっていた考えを、しっかり「課題」となるまで深めていくのがどれだけ難しいことか最後のディスカッションで痛感しましたし、それがいかに重要かも理解することができました。自分も医師を志す上で、課題発見・解決策提示をしっかりとできるように常に考えていきたいと思えます。このような貴重な会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

3 発表会では、多くの人の考え方に触れ、新たな視点で問題と向き合うことができ、とても勉強になりました。特に海外の方の原発への向き合い方が日本人とは違うことに驚きました。全員が納得する解決策を考えるのは難しいと感じました。

坪倉先生の講演では、自分に足りないものに気付かされました。「問題と課題」ということについては初めて指摘されたので、特に心に響きました。将来福島の復興、医療に携わるという夢に向けて、自分が何をすべきなのかを具体的に考える大きなきっかけになったし、今の自分には何ができるのか少し見えてきた気がします。これからどの分野においても、もっと様々な情報を得て学び、課題を見つけるということを実践していきたいと思えます。

参加して本当に良かったと思っています。このような機会を設けてくださりありがとうございました。

3 とても勉強になった。ディスカッションの部分が非常に楽しかった。

時間が短かったこともあるが、異なる学年同士や男女混合の話し合いがあるといいと思った。

3 被災地研修などには参加していないが、被災地の現状や、そこに対する考え方などを、知ることができた。今回のことで終わりにするのではなく、次の世代へと繋げられるように、自分自身で被災地へ行こうと思った。

3 今日新たに学んで見つけた目標をこれからの人生で実行して生きたいと思う。参加して良かった。

---



以下、紙で提出した人

問題点を指摘するのは  
誰にもできるが、

課題は何かを見つけては  
難しいことだと感じた。

何をすべきかと...

閉鎖的な「S」に

たまりかたを  
痛感した。

福島の実状について、くわしく新しく知れたので  
良かったと思います。

坪倉先生の講演会では、自分で課題と  
何かができるかを考えることが大事だと  
いうことが知れました。

ホスターで習者にくわたくもと2E兵衛で  
すごかった。

福島の実状、今何をいふかを知ることでできておこなっている。  
坪倉先生の話で、たよりに自分で課題も考えて  
その届く範囲での解決策を今後の採択活動で  
活かしていきたいです。

坪倉先生の指摘が全て当てはまっていた、ハッとされました。  
ありがとうございました。

SS探究の活動で、「問題」、「課題」、「解決方法」  
を考える上で、とても参考になった。とても有意義な体験。

探究活動の方向性や探究好上での  
ありかについて、非常に深く知ることが  
できたので良かったです。問題にとどま  
らず、そこから課題を見出して、Sを  
考えた解決策を提示できよう  
かとばかり考えています。

私はドイツに留学していますが、

同じヨーロッパでもドイツとイギリスは原爆に  
対する考え方が違うことがわかりました。

多面的に原爆について考えることができて  
よかったです。

たくさん学べることがあって良かったです。  
非常にためになりました。

机上の空論にならない  
ようなポイントでした。

友人と話し合うことにより、  
今までよく分からなかったことに対し  
理解も深まった。

今日、実際に課題についていつも以上に  
意識して、話し合いをすることができました  
が、とても難しかったです。私も課題を  
発見し、解決できる能力を身につけられる  
ように、日ごろから「課題」について  
意識し、訓練していったらと思いました。  
今日の発表会、講演はとてもためになりました。  
ありがとうございました。

自分はまだまだ知らないことがたくさんあって、まず「世の中で  
分かっていることを学ばなければならぬ」と感じた。  
またこれから自分たちの世代が「課題」を考え、小さなことでも  
解決していかなければいけないことを知り、もっと多くの人々  
に関心をもち、もたらすための努力をしていきたいと思った。

おきな発表をありがとうございました。  
全て分かりやすく、一人一人がはっきりと現状や自分の意見を  
発表して、思わぬ尊敬しました。  
これからも福島のためにできることをがんばってください。  
私も福島に貢献できるように努力します。

多くの発表を聞いて、一人一人の復興に対する思いや、  
地元に対する思いが、こまごまと強いのなのと、圧倒されました。  
短時間ではありましたが、自分の福島への思いや原爆に  
対する価値観がさらに向上しました。ありがとうございました。

土井先生の話と課題や問題に対するア  
プローチの仕方が分かった。

今回の会を通してまたまた「解決策」は  
なさねえと感じた。

これからの問題の解決の主体は  
自分達なのだ。あらためて自覚で  
きた。

5組のプレゼンの発表は、  
とても興味をそそられ、  
非常にいい3時間となりました。  
原発事故への興味もここに  
あいたので、  
何か目的で何か問題点を  
じっくり考えてみたいですね。

質問を聞いて通して、自分の考えをも  
はきりさせられるのと改めて感じた。